時事新報の編輯ゝ關する書信にして往々社員へ宛御送致の向も有之候得共宛名の社員不在の事ありて折角の報道も其用を爲さゞるよ寡からざれば斯る書信は一切時事新報編輯局宛にて御送付被下度候

時事新報定價

時事新報へ一年三百六十五日一日も休刊せゞ其代價遞送料廣告料へ左ノ如シ

○一箇年前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓

○一箇年前金六圓

○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外二箇月二十六錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

五號活字ニテ一行廿四字詰	一行ニ付一月限	一行ニ付二日以上六日迄	一行ニ付七日以上十五日迄	一行ニ付十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢	六錢
自十一行至廿行	九錢	七錢	六錢	五錢
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報

土地賣買の氣勢

（前號の續き）

我輩は前號に於て土地と少數富豪者の占有に任ずるは經濟上社會上共に甚だ憂ふべきの次第なれば我國の土地所有者は目前一時の計算に迷ハされて濫りに之を賣却するの非ゝ論述せりと雖も人或は說をおして我國にては數百年來の慣習により富強の者が貧弱を憐むの德心其だ深く現に東北地方に至れば稍や著るしき大地主ありてもの決して歐洲諸國の如き慘狀ゝ立到るの懸念、萬々無用なりと云ふもあらんかなれども是は昔ゝ見て今を知らざる者れ言たるゝ過論ナ在昔淳朴の時代には世事簡易にして人情も亦厚く貧弱を憐むべしとの一儀は儒數も說き寺僧も說き父老も亦之を敎えて全國一般に仁愛の風を重んぜたる猶は其上に德川政府は恰も社會主義の政略を以て貧富の平均を謀り成る可く極貧者のなからんことを欲すると共ゝ大富豪者の興らざらんことゝ勉めたるが故ゝ若しも地主と小作人との間に爭議紛紜を生ずる抔のともあれば政府の裁定は大抵小作人の勝利に歸し純理の外ゝ立て人事の平權を保ちたるものなり然るに近來に至りては百事法律の理論を以て支配し人々相對の契約に於ても何か訴訟に及ぶの場合に際しては渾てその證書の文面によりて法理を按するの始末なれば前日の如く政府の手心を以て處分をる能はざるのみならず代言人なる者の頻に出沒して理義を明かにするを職とするもの多きに至りたるより社會萬般の事は一々四角四面の規矩に從ひ優勝劣敗れ趨勢漸く將に時を得んとして往昔の慣行風習は何時までも其効力を保持す可しと思はれず人文の進歩美なるに似たりと雖も前途を想像すれば却て轉た慄然たるものなきに非ざれば富豪者の德心に依賴するゞ如きは永く望む可らざることゝ知るべきのみ

又或は曰く地主の小作人を苦しむるとは甚だしくゑて非道の取扱をなし法外の利を貪ぼるともあらんなれども小作人にも亦絕て之に抵抗するの方便なきに非ず即ち同盟罷工（ストライキ）を以てするときは地主も之に一籌を讓せざるを得ずして彼是權衡を保つれ勢權自ら其間に在りて存そるなりとの說もあれども元來同盟罷工とは耕さずして地主を苦しむるとの義なり然るに地主は果して其耕さざるに辟易せべきやと云ふに決して然らず地主と地主との間にて小作人の同盟罷工となすものあらんとゝ慮ゞ各自の利益と保護せんが爲め耕さしめずして小作人を苦しむるの約束を結ぶ可し即ち從來甲地主の田地に勞働ゝたる小作人が一朝不平と鳴らして其配下を辭するとせんか勞力は他の物品と異にして長く貯藏する能はざるものなれば勢、更に乙地主の許に至りて勞働を執るの外なかるべし乙は之と雇入るゝに當り其曾て甲に仕へて同盟罷工の擧動ありたるを知り豫ての約束に基き之と拒絕するが故に小作人は今や地主の同盟あるより俗に所謂逆捻を喰はせらるの趣となるべし斯て地主と小作人と互ゝ白眼合の姿となるときは優勝劣敗の理また〻現はれ貧弱なる小作人は遂ゝ涙を拂ふて富豪地主に降を乞はざる可らず此等の事例は歐米諸國ゝ申すゝ及ばず近來我國に於ても亦漸く既に聞く所なれば同盟罷工の方便も未だ全く依賴するに足らざるなり、然らば則ち濫りに土地を賣却して富豪者に權力と歸そるの不可なるは固より明白の事なりと雖も猶は一歩を進めて考ふるゝ今千圓の土地を所有すると雖は近鄕近村の尊敬信用も亦ゝ共に附帶し來るものにして其價は當ゝ千圓のみゝ非らず恰も三千圓にも五千圓ゝも相當すべきなれども之を賣放して紙幣に換ふるときは尊敬信用は直ちに去りて所持の紙幣千圓は正しく千圓たるに過ぎず即ち人生の榮譽の點より觀れば三五千圓を捨てゝ千圓を取るものに等しく損得利害と思はざるの處置にして何れの點ゝ察するも我輩は未だ土地賣却の可なるを發見するゝと能はざれば近來土地買の漸く流行せんとするの折柄我國の小地主ゝ偶々隣人の土地と賣却して一時富裕と裝ふの外觀ゝ惑はされ自ら其尤めゝ傚はざらんと偏に勸告する所あり

（畢）

官報

陸軍參謀本部條例ヲ廢止シ參軍官制制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治廿一年五月十二日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆

陸軍大臣伯爵大山巖

海軍大臣伯爵西鄕從道

勅令第二十四號

參軍官制

第一條　參軍ハ帝國全軍ノ參謀長ニシテ皇族大中將一名ヲ以テ之ニ任シ直ニ皇帝陛下ニ隸ス○第二條　參軍ハ帷幄ノ機務ニ參畫シ出師計畫國防及作戰ノ計畫ヲ掌ル○第三條　凡ソ戰略上事ノ軍令ニ關スルモノハ專ラ參軍ノ管知スル所ニシテ之カ參畫ヲナシ親裁ノ後平時ニ在テハ直ニ之ヲ陸海軍大臣ニ下タシ戰時ニ在テハ參軍之ヲ師團長艦隊司令長官鎭守府司令長官若クハ特命司令官ニ傳宣シテ之ヲ施行セシム○第四條　參軍ハ陸海軍ノ參謀將校ヲ統轄シ其敎育ヲ監督ス○第五條　參軍ノ下ニ陸軍參謀本部海軍參謀本部ヲ置キ陸海軍將官各一名ヲ以テ其長トシ參軍ヲ輔翼シ部事ヲ管掌シム○第六條　參軍ニ陸海軍參謀本部副官（少佐大尉ノ內）各一名宛ヲ專屬ス

陸軍參謀本部條例陸軍參謀職制陸地測量部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治廿一年五月十二日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆

陸軍大臣伯爵大山巖

海軍大臣西鄕從道

勅令第二十五號

陸軍參謀本部條例

第一條　陸軍參謀本部ハ參軍ノ下ニ在テ出師計畫並國防及作戰計畫並陣中要務規定ノ事ヲ掌リ交通法及外國ノ軍事ヲ調査シ兼テ內外地誌外國政誌及戰史ノ編纂ヲ掌ル所トス○第二條　本部長ハ陸軍將官ヲ以テ之ニ補シ從來甲地主の田地に勞働ゝたる小作人が一朝不平と鳴らして其配下を辭するとせんか勞力は他の物品と異に長く貯藏する能はざるものなれば勢、更に乙地主の許に至りて勞働を執るの外なかるべし乙は之と雇入るゝに當り其曾て甲に仕へて同盟罷工の擧動ありたるを知り豫ての約束に基き之と拒絕するが故に小作人は今や地主の同盟あるより俗に所謂逆捻を喰はせらるの趣となるべし斯て地主と小作人と互ゝ白眼合の姿となるときは優勝劣敗の理また〻現はれ貧弱なる小作人は遂ゝ涙を拂ふて富豪地主に降を乞はざる可らず此等の事例は歐米諸國ゝ申すゝ及ばず近來我國に於ても亦漸く既に聞く所なれば同盟罷工の方便も未だ全く依賴するに足らざるなり、然らば則ち濫りに土地を賣却して富豪者に權力と歸そるの不可なるは固より明白の事なりと雖も猶は一歩を進めて考ふるゝ今千圓の土地を所有すると雖は近鄕近村の尊敬信用も亦ゝ共に附帶し來るものにして其價は當ゝ千圓のみゝ非らず恰も三千圓にも五千圓ゝも相當すべきなれども之を賣放して紙幣に換ふるときは尊敬信用は直ちに去りて所持の紙幣千圓は正しく千圓たるに過ぎず即ち人生の榮譽の點より觀れば三五千圓を捨てゝ千圓を取るものに等しく損得利害と思はざるの處置にして何れの點ゝ察するも我輩は未だ土地賣却の可なるを發見するゝと能はざれば近來土地買の漸く流行せんとするの折柄我國の小地主ゝ偶々隣人の土地と賣却して一時富裕と裝ふの外觀ゝ惑はされ自ら其尤めゝ傚はざらんと偏に勸告する所あり

（畢）

官報

陸參謀本部條例ヲ廢止シ參軍官制制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治廿一年五月十二日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆

陸軍大臣伯爵大山巖

海軍大臣西鄕從道

勅令第二十四號

參軍官制

第一條　參軍ハ帝國全軍ノ參謀長ニシテ皇族大中將一名ヲ以テ之ニ任シ直ニ皇帝陛下ニ隸ス○第二條　參軍ハ帷幄ノ機務ニ參畫シ出師計畫國防及作戰ノ計畫ヲ掌ル○第三條　凡ソ戰略上事ノ軍令ニ關スルモノハ專ラ參軍ノ管知スル所ニシテ之カ參畫ヲナシ親裁ノ後平時ニ在テハ直ニ之ヲ陸海軍大臣ニ下タシ戰時ニ在テハ參軍之ヲ師團長艦隊司令長官鎭守府司令長官若クハ特命司令官ニ傳宣シテ之ヲ施行セシム○第四條　參軍ハ陸海軍ノ參謀將校ヲ統轄シ其敎育ヲ監督ス○第五條　參軍ノ下ニ陸軍參謀本部海軍參謀本部ヲ置キ陸海軍將官各一名ヲ以テ其長トシ參軍ヲ輔翼シ部事ヲ管掌シム○第六條　參軍ニ陸海軍參謀本部副官（少佐大尉ノ內）各一名宛ヲ專屬ス

陸軍參謀本部條例

第一條　陸軍參謀本部ハ參軍ノ下ニ在テ出師計畫並國防及作戰計畫並陣中要務規定ノ事ヲ掌リ交通法及外國ノ軍事ヲ調査シ兼テ內外地誌外國政誌及戰史ノ編纂ヲ掌ル所トス○第二條　本部長ハ陸軍將官ヲ以テ之ニ補シ部內ノ切ノ事務ヲ統理シ參軍ニ對シ其責ニ任ス○第三條　本部ニ副官部ヲ置キ部內ノ庶務會計經理ノ事ヲ管掌シ兼テ陸軍文庫ヲ管理セシム」副官ハ大（中）佐一名及佐尉官三名ヲ以テ之ニ補シ其下ニ部員各兵尉官二名之ニ補シ圖書ノ保存出納ヲ掌ラシム其下ニ屬ヲ附屬ス」一等軍吏一名二三等軍吏一名ヲ置キ部內會計給與一切ノ事ヲ掌ラシム其下ニ書記ヲ屬ス○第四條　本部ニ一左ノ二局ヲ置キ部事ヲ分擔セシム」第一局

出師計畫及團隊編制」二　交通法ノ調査」第二局

一　國防及作戰計畫並ニ陣中要務ノ規定」二　外國軍事ノ調査」編纂課

一　內外地誌外國政誌及戰史ノ纂輯」二　外國書ノ飜譯」各局員ハ參謀大佐ヲ以テ之ニ補シ各局員ハ參謀中少佐大尉ノ內八名宛ヲ以テ之ニ補ス但定員ノ外各兵大中尉若干ヲ附屬シ出仕將校トシテ局務ニ從事セシムルコトヲ得」編纂課長ハ各兵中少佐ヲ以テ之ニ補シ課員ハ各兵佐尉官或文官四名ヲ以テ之ニ補シ其下ニ屬ヲ附屬ス○第五條　陸軍大學校（當分ノ內）及陸地測量部ハ陸軍參謀本部ノ管轄ニ屬ス

陸軍參謀職制

第一條　陸軍參謀將校ハ高等將帥ノ職務ヲ補佐シ殊ニ戰術及ヒ戰略ニ關スル機務ヲ參畫スルヲ任トス○第二條　陸軍參謀將校ハ參軍之ヲ統轄シ陸軍參謀本部監軍部所衛及ヒ師團參謀部ニ於テ服事セシム○第三條　陸軍參謀本部ノ參謀將校ハ本部長ニ隸シ出師ノ計畫國防及作戰ノ計畫並外國軍事ノ調査ニ係ル事務ヲ分擔ス○第四條　監軍部ノ參謀將校ハ監軍ニ隸シ部事ヲ擔任ス○第五條　近衛及師團參謀將校ハ都督師團長ニ隸シ該司令部ノ事務ニ師團出戰整備並機動演習ニ關スル事務ヲ整理スルヲ任トス○第六條　陸軍參謀本部附屬參謀將校ハ其所屬長官ニ隸シ各其定ムル所ノ職務ニ服ス○第七條　參謀ノ職ニ補シ得ル者ハ諸兵科ノ大尉以上ヲ以テスルヲ例トシ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ撰拔ス」

其一　陸軍大學校ヲ卒業シタル參謀適任ノ將校ニシテ卒業後一年以上隊附服務ヲナシタルモノ」其二　全軍中才能衆ニ秀タル將校ニシテ統職ニ適任ナルモノ○第八條　參謀將校ハ時々軍隊ニ轉任セシメ其伎倆卓越ナレハ所要ニ應シ再ヒ參謀部ニ轉入セシム○第九條　參謀將校ハ師團參謀將校ト近衛及師團參謀將校トハ從軍武官進級ノ參謀將校トシテ職務ニ完熟セシム爲メ參謀本部監軍部ルヲ法トス○第十條　參謀將校ノ進級ハ陸軍武官進級條例ニ依テ之ヲ律ス（陸軍參謀官員表略ス）

陸地測量部條例

第一條　陸地測量部ハ陸地測量ヲ施行シテ兵要及一般ノ國用ニ充ツ可キ內國圖ヲ製造スル所トス○第二條　陸地測量部ニ三角科地形科及製圖科ヲ置キ各科ヲ數班ニ分チ又別ニ修技所ヲ置ク」○第三條　陸地測量部ニ左ノ職員ヲ置ク」部長　各兵大佐一人」科長　各兵中少佐　三人」班長　各兵大尉或相當技術官　十人」班員　各兵中少尉或相當技術官　若干人」副官　各兵大尉　一人」計官　軍吏　一人」科僚　各兵中少尉　三人」修技所幹事　各兵大尉　一人」修技所敎官　若干人」副官　各兵大尉　一人」材料主管　若干人」計官　若干人」修技所助敎　准士官下士或相當技術官　若干人」○第四條　部長ハ陸軍參謀本部長ニ隸シ部事ヲ整理シ其責ニ任ス○第五條　部長ハ德間權並部內官僚ノ休暇附與權ヲ有スルコト聯隊長ニ同シ○第六條　三角科ハ三角測量ヲ施行シテ地圖製造ノ基礎ヲ設爲シ地形科ハ地形測量ヲ施行シテ原圖ヲ製造シ製圖科ハ原圖ニ由リ諸抑圖ヲ製造シテ之ヲ製版スルコトヲ掌リ及班ハ科內ノ業務ヲ分掌ス○第七條　科長ハ各其科ノ事業ヲ管理ス○第八條　班長ハ各其班ノ業務ヲ管理ス○第九條　班員ハ諸掛ニ分チ各其業務ヲ掌ル○第十條　副官ハ部內ノ庶務ヲ掌ル○第十一條　材料主管ハ材料及圖籍ノ保管出納ヲ掌ル○第十二條　計官ハ測量費ノ會計ヲ掌ル○第十三條　科僚ハ科內ノ庶務ヲ掌ル○第十四條　科長ハ技術官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得○第十五條　修技所ハ技術官ヲ敎育シ可キ技術官ヲ養成ス○第十六條　修技所ハ敎官ヲ以テ之ニ充ツ可キ技術官ヲ敎育シ兼テ內外地誌ノ編纂ヲ掌ル○第十七條　修技所ハ敎官ヲ以テ之ニ補シ部內ノ庶務ヲ掌ル○第十八條　修技所ハ敎官ヲ以テ之ニ補シ部內ノ事務ヲ統理シ參軍ニ對シ其責ニ任ス○第十九條　修技所ハ敎官部ニ副官ヲ置キ部內ノ庶務會計經理ノ事ヲ管掌シ兼テ陸軍文庫ヲ管理セシム」副官ハ大（中）佐一名及佐尉官三名ヲ以テ之ニ補シ其下ニ部員各兵尉官二名之ニ補シ圖書ノ保存出納ヲ掌ラシム其下ニ屬ヲ附屬ス」一等軍吏一名二三等軍吏一名ヲ置キ部內會計給與一切ノ事ヲ掌ラシム其下ニ書記ヲ屬ス○第二十條　修技所ハ敎官ニ部事ヲ分擔セシム」第一局

出師計畫及團隊編制」二　交通法ノ調査」第二局

一　國防及作戰計畫並ニ陣中要務ノ規定」二　外國軍事ノ調査」編纂課

一　內外地誌外國政誌及戰史ノ纂輯」二　外國書ノ飜譯」各局員ハ參謀大佐ヲ以テ之ニ補シ各局員ハ參謀中少佐大尉ノ內八名宛ヲ以テ之ニ補ス但定員ノ外各兵大中尉若干ヲ附屬シ出仕將校トシテ局務ニ從事セシムルコトヲ得」編纂課長ハ各兵中少佐ヲ以テ之ニ補シ課員ハ各兵佐尉官或文官四名ヲ以テ之ニ補シ其下ニ屬ヲ附屬ス○第五條　陸軍大學校（當分ノ內）及陸地測量部ハ陸軍參謀本部ノ管轄ニ屬ス

陸軍參謀職制

第一條　陸軍參謀將校ハ高等將帥ノ職務ヲ補佐シ殊ニ戰術及ヒ戰略ニ關スル機務ヲ參畫スルヲ任トス○第二條　陸軍參謀將校ハ參軍之ヲ統轄シ陸軍參謀本部監軍部所衛及ヒ師團參謀部ニ於テ服事セシム○第三條　陸軍參謀本部ノ參謀將校ハ本部長ニ隸シ出師ノ計畫國防及作戰ノ計畫並外國軍事ノ調査ニ係ル事務ヲ分擔ス○第四條　監軍部ノ參謀將校ハ監軍ニ隸シ部事ヲ擔任ス○第五條　近衛及師團參謀將校ハ都督師團長ニ隸シ該司令部ノ事務ニ師團出戰整備並機動演習ニ關スル事務ヲ整理スルヲ任トス○第六條　陸軍參謀本部附屬參謀將校ハ其所屬長官ニ隸シ各其定ムル所ノ職務ニ服ス○第七條　參謀ノ職ニ補シ得ル者ハ諸兵科ノ大尉以上ヲ以テスルヲ例トシ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ撰拔ス」

其一　陸軍大學校ヲ卒業シタル參謀適任ノ將校ニシテ卒業後一年以上隊附服務ヲナシタルモノ」其二　全軍中才能衆ニ秀タル將校ニシテ統職ニ適任ナルモノ○第八條　參謀將校ハ時々軍隊ニ轉任セシメ其伎倆卓越ナレハ所要ニ應シ再ヒ參謀部ニ轉入セシム○第九條　參謀將校ハ師團參謀將校ト近衛及師團參謀將校トハ從軍武官進級ノ參謀將校トシテ職務ニ完熟セシム爲メ參謀本部監軍部ルヲ法トス○第十條　參謀將校ノ進級ハ陸軍武官進級條例ニ依テ之ヲ律ス（陸軍參謀官員表略ス）

陸地測量部條例

第一條　陸地測量部ハ陸地測量ヲ施行シテ兵要及一般ノ國用ニ充ツ可キ內國圖ヲ製造スル所トス○第二條　陸地測量部ニ三角科地形科及製圖科ヲ置キ各科ヲ數班ニ分チ又別ニ修技所ヲ置ク」○第三條　陸地測量部ニ左ノ職員ヲ置ク」部長　各兵大佐　一人」科長　各兵中少佐　三人」班長　各兵大尉或相當技術官　十人」班員　各兵中少尉或相當技術官　若干人」副官　各兵大尉　一人」計官　軍吏　一人」科僚　各兵中少尉　三人」修技所幹事　各兵大尉　一人」修技所敎官　若干人」副官　各兵大尉　一人」材料主管　若干人」計官　若干人」修技所助敎　准士官下士或相當技術官　若干人」○第四條　部長ハ陸軍參謀本部長ニ隸シ部事ヲ整理シ其責ニ任ス○第五條　部長ハ德間權並部內官僚ノ休暇附與權ヲ有スルコト聯隊長ニ同シ○第六條　三角科ハ三角測量ヲ施行シテ地圖製造ノ基礎ヲ設爲シ地形科ハ地形測量ヲ施行シテ原圖ヲ製造シ製圖科ハ原圖ニ由リ諸抑圖ヲ製造シテ之ヲ製版スルコトヲ掌リ及班ハ科內ノ業務ヲ分掌ス○第七條　科長ハ各其科ノ事業ヲ管理ス○第八條　班長ハ各其班ノ業務ヲ管理ス○第九條　班員ハ諸掛ニ分チ各其業務ヲ掌ル○第十條　副官ハ部內ノ庶務ヲ掌ル○第十一條　材料主管ハ材料及圖籍ノ保管出納ヲ掌ル○第十二條　計官ハ測量費ノ會計ヲ掌ル○第十三條　科僚ハ科內ノ庶務ヲ掌ル○第十四條　科長ハ技術官ヲ以テ之ニ充

大學通俗講談會　第三期第四回
來ル十九日午後六時半ヨリ一ツ橋外大學講堂ニ於テ
攝生法　下等植物生殖ノ說　理學士　下山順一郎
一當銀行株式三百五十株
右ハ華族正五位伯爵中川久成所有ノ分今般世話人ヲ以テ公布セシム但傍聽無料傍聽爲シ度旨願出候趣宮內大臣ヨリ被達候條故陸アル者ハ來ル六月廿日迄當銀行ヘ申出アルベシ
但株券番號知致度者ハ當銀行株式掛ヘ申出有ヘシ
爲御知
時數町區一番町
事、五月十四